

事務事業名	野犬等保護捕獲事業		所属部局	市民部		単位番号	4117						
			所属課室	環境課		課長名	深澤 政樹						
	☐ 実施計画事業		所属担当	環境保全担当		担当者名	花輪 俊明						
基本政策	基本計画体系	IV	快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目		
		20	快適生活環境の整備		01	一般	04	01	05	05	00	1	
政策	33	生活環境の保全	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金									
施策													
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 年度)			法令根拠	犬管理条例								
	☐ 期間限定複数年度 (年度) 年度)												
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 野犬等(野犬及び保留されていない犬)を捕獲・保護し、安心安全な生活環境を維持する。市民からの通報により、市民が保護した野犬等の抑留を行う。 保護されていない野犬等については、情報を元に現地調査を行い、捕獲器を設置し、捕獲する。犬の放し飼いや、逸走犬が野犬等の発生に起因していることから、適正飼養の看板等により啓発する。			事業費の主な内訳 (22年度)									
				項目(細節)				金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)	
				消耗品費				178		修繕料		4	
				手数料				0					
										計		182	

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と目標

① 活動	22年度活動実績	市民からの情報により、野犬等の捕獲及び逸走犬の保護をし情報の内容により、放し飼いの犬の所有者を指導した。
	23年度活動予定	野犬等の捕獲及び逸走犬の保護をし、放し飼いの犬の所有者に徹底した指導をし、咬傷事故等を未然に防ぐ。
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	野犬、逸走犬、犬の所有者	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	野犬、逸走犬の減少と犬の所有者のマナーの向上が図られる。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	野犬、逸走犬等による人畜への被害が減少する。	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない		
名称	単位	
ア 野犬等の保護捕獲依頼数	件	
イ 逸走犬届出件数	件	
ウ 犬の苦情件数	件	
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない		
名称	単位	
ア 野犬等の保護捕獲頭数	頭	
イ 犬の公示件数	件	
ウ 啓発件数	件	
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない		
名称	単位	
ア 犬の返還頭数	頭	
イ 犬の行政処分頭数	頭	
ウ 指導件数	件	
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない		
名称	単位	
ア 野犬等の被害件数	件	
イ		

(2) 事業費・指標の推移			単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間トータルコスト	事業費	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	274	182	259	255	255	255	
		一般財源	千円							
	事業費計 (A)			千円	274	182	259	255	255	0
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	4	
		延べ業務時間	時間	200	200	200	200	200	200	
		人件費計 (B)	千円	892	892	792	792	792	792	0
		(A)+(B)	千円	1,166	1,074	1,051	1,047	1,047	1,047	0
活動指標	ア	件		14.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	
	イ	件		49.0	26.0	30.0	30.0	30.0	30.0	
	ウ	件		28.0	42.0	30.0	30.0	30.0	30.0	
対象指標	ア	頭		110.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	
	イ	件		42.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	ウ	件								
成果指標	ア	頭		58.0	22.0	20.0	20.0	20.0	20.0	
	イ	頭		18.0	22.0	20.0	20.0	20.0	20.0	
	ウ	件								
上位成果指標	ア	件		14.0	32.0	20.0	20.0	20.0	20.0	
	イ									

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	合併前の旧町村時代より、人畜を野犬等の被害から守るための目的で開始された。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	以前に比べ野犬数は減少しているが、飼い犬らしき犬が捨てられるケースが増えている。猟犬のような犬が山に放置されていることもある。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	逸走犬等を早急に保護し、飼い主が判明した場合は厳しく注意してもらいたいとの声を聞いた。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	狂犬病予防注射済票交付時に首輪に済票プレートを必ずつけるよう指導し、犬の飼い方のチラシの配布、看板の設置をした。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	犬の飼い方についてCATV等で周知を徹底した。また、鑑札、注射済票のデザインも好感度の持てるものとした。更にチラシの配布を行った。

事務事業名	野犬等保護捕獲事業	所属部	市民部	所属課	環境課
-------	-----------	-----	-----	-----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 生活環境の保全の意味から、人畜に被害を与える野犬等の捕獲は、施策に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 本事業の事業費は、犬の抑留手数料及び狂犬病対策事業の手数料でまかなっている。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 生活環境の保全を維持していくためには、適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 市民に徹底して今まで以上に、犬の飼い方等を周知する。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 狂犬病予防対策事業と類似しているため。 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 野犬、逸走犬が多発し、人畜に被害が出る。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 市犬管理条例に基づいているため、休止・廃止は不可能である。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 事業コストは100%犬の飼い主の手数料でまかなっており必要最小限のものである。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方・の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 必要最小限の出動時間であるため。また、外部委託すると高額となる。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 野犬等の保護捕獲は、市民全体への生活環境の保全であるので、公平公正であると思われる。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	本事業の野犬・逸走犬といえども、基本的には犬の管理飼育に共通しているため、狂犬病予防対策事業と統合すべきと考える。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について																								
①歳出予算の統一化。																								
②																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
①		成果優先度評価結果																						
②		⑪																						
③																								
		コスト削減優先度評価結果																						
		⑥																						